

新型コロナウイルス感染症の拡大、記録的な猛暑による熱中症の増加と暗い話題が多かった8月が終わり、新米やキノコなどの話題が里山を潤すいつもの秋が訪れる事を願わずにはいられない昨今です。

新型コロナウイルス感染症は引き続き油断できない状況が続きます。自分のため家族のために感染防止の努力をお願いします。

国と県のコロナ対策関連予算を活用した東白川村の第3次コロナ対策事業は、感染予防とコロナ共生社会を生き抜くための地場産業への支援、村民の皆様への生活支援を盛り込み、9月の村議会定例会へ補正予算案として提案いたします。既に村議会の御理解を得て、事前に制度設計や関連団体との調整も進めております。

厳しい経営状況が続き、経営の建て直しが急務であった第三セクター**有限会社新世紀工房**と**株式会社ふるさと企画**は、新型コロナウイルス感染症に追い討ちをかけられた状況です。株式会社ふるさと企画には870万円、有限会社新世紀工房には1千万円の資金を貸付金として村から支出し、なんとか経営を続けています。

特に株式会社ふるさと企画は、その存続意義も含めて議会でも議論いただき、経営検討会議で検討を重ね再建策を決定しました。大きく変更となる点は、

- (1) 当分の間、団体客の利用が見込めない「こもれびの館」「レストラン味彩」の交流事業については10月からふるさと企画から経営を切り離し、規模を縮小して村の直営で運営します。
- (2) 本社があったふるさとセンターは管理委託を解除し、役場の分庁舎として活用します。
- (3) 「つちのご館」を改装して、本社の事務所とツチノコ資料館としての機能を果たしてまいります。したがって、「つちのご館」での物産販売はツチノコ関連グッズだけに縮小します。
- (4) 薪の販売事業は、継続して取り組みます。
- (5) 農業部門と味の館の製造部門は、連携してトマトジュースの高価格帯商品への移行と直販営業の強化を経営再建の重要課題にして経営改革に取り組みます。

5年間で利益の出る会社にすることを目標としますが、地域での雇用を創出し、地域経済を活性化するという会社の存在価値を守るため、当面の間、村からの資金面と人的な支援が必要と考えています。

有限会社新世紀工房はコロナの影響、葬儀部門の受注減少などで売り上げが減少し、営業損失の状況が続いており、これに加えて金融機関からの多額の借入が経営の悪化を招いております。そこで、茶の里工房事業を今年の4月から株式会社エネテック様と業務提携契約を締結して『杜の工房』として分離し、キクラゲ製品の加工販売を始めております。また、事業の中核である白川茶の製造販売事業は「みのりの郷東白川株式会社」と連携し、白川茶の産地を守る取組みに欠かせない存在であることから、経営改革を村が全面支援してまいります。

この2つの会社は、本村のような採算性が悪く民間企業の立地が期待できない地域にあって、地域産業の振興や雇用の創出などを村が出資した会社(第三セクター)の経済行為で実現する為に設立された会社です。今後とも適正な管理を行ないながら運営してまいりますので、村民の皆様の御理解と一層の御支援をお願いいたします。

令和2年9月

東白川村長 今井俊郎